

俺は他人<sup>ひと</sup>を傷つけるために生まれてきた  
己の小っぼけな虚栄を咲かせるために生まれてきた  
ああ、何とグロテスクな色香だ、吐き気がする  
こんな花はハエを集めるぐらいがせいぜいよ  
血溜まりに伸びた枯茎の先に咲く赤黒い痛みの花だ

俺は他人<sup>ひと</sup>を傷つける度に自分も血をだらだらと流し  
そして他人はけろりとしてびくともせずにいるのに  
俺の方は、心臓に生えた鋭い枯茎の成長に  
ますます苦痛に呻いて胸元を押さえ  
切り取ってしまうこともできず  
神経と動脈の通った堅い枯茎が伸びる様を  
ただ絶望的に息を吐いて見つめるだけだ

ああ、長く伸びた茎ののどかに揺れる度  
俺の中で肉がびりびりと裂け、骨がみしみしときしる  
偽善の血がぬらぬらと流れ出す  
悶え苦しみ、身をねじるほどに枯茎は笑い  
俺の声は高く低く波打って、突然に  
あたかもキャラコの布を引き裂く如き叫びとなる

その叫び、何であの無慈悲な植物に通じよう  
この寄生はまさに一方的で、げに相互依存のかけらもない  
ああもう駄目だ、堪えられない  
ナイフだ、よく切れるナイフをくれ  
それで喉頭を掻き切り、腹を滅茶苦茶にかき回してやる  
そうとも、腹だ、あの堅い茎は俺には切れない  
どうしたって切れない・・・

(1982.5.23)